



岡山大学
Okayama University



START!

世界への扉
岡山大学、
始動。

Matching Program course



自らの力で

未来を切り開こう



岡山大学
マッチングプログラムコース
OKAYAMA UNIVERSITY Matching Program Course

2013



MP だからこそ できること

マッチングプログラムコース 教育部長

上田 均

Hitoshi Ueda

皆さんは、どんな目的で大学に入学するのでしょうか。皆さんの多くは、それぞれの学部等で、自分の将来の職業のため、知識や考え方を学ぶことを目的としていると思います。しかし、既存の学部・学科・コースなどでは、自分の学びたいことを十分学べないと考えている人もいます。

岡山大学マッチングプログラムコース（MP コース）は、自分の現在の興味や将来の目的のため、教員の助言を受けながら学部や学科の枠にとらわれずに自分自身にあった履修プログラムを作成して学ぶことができるユニークなコースです。また、MP コースでは、現代社会で重要視されている英語力も含めたコミュニケーション能力、さらに自ら考えだす能力を養うことにも重点を置いており、その中で一人ひとりの個性や能力を一層伸ばすことを目指しています。そして、これらの教育過程により、現代ますます多様で複雑になりつつある社会の要請に応えられるような人材を育成しています。

このMP コースは2006年度にスタートした新しいコースで、卒業しているのは3期生までと少しですが、その卒業生は、さらに専門性を深めるために大学院に進学したり、社会に出て活躍しています。また、これまでの就職希望者は昨今の不況下でありながら就職活動を有利に進め、多くの学生が早い段階で希望の企業への内定を得て就職することができています。これはMP コースで学ぶことができる広い視野にたった専門性ととも、コース独自の教育の中で培われるコミュニケーション能力、チャレンジ精神、独立心、さらには創造性などが高く評価されたためと思われます。一方、卒業後は大学院へ進学し、さらに専門性の高い教育をうけている学生も多数います。

好奇心にあふれた人、考えることが好きな人、他人と少し違うことがしてみたい人、学部の枠を越えてさまざまな分野のことを学びたい人、色々な分野に興味があり志望分野を決めかねている人は、ぜひMP コースの入学試験に挑戦してください。MP コースの入試は、単に知識を持っているかだけではなく、知識を生かすことができる能力を持っているか、MP コースの目指す教育を受ける能力・資質を持っているかをみます。2日間ある入試は少しハードかもしれませんが、多くの受験生が楽しかったという感想を寄せてくれており、いい経験にもなると思います。

MP コースって？

マッチングプログラムコース（MP コース）は、幅広い分野に興味を持ち、自分で考える力を育んできた生徒を受け入れ、先進科学分野・国際連携分野などで活躍する人材を育成するため、岡山大学における戦略的構想の下に生まれた新しい教育コースです。様々な分野に興味を持ち、意欲のある生徒を育てるためには、入学時や就学時に起こるミスマッチを解消し、目的指向力を高めることが何よりも重要です。学生が担任やアカデミック・アドバイザーの指導の下で、将来の目標に対するマッチングを図ることにより、学生の目的指向力を高め、国際社会で役に立つ英語や課題探求型授業などの先進的教育プログラムを実践しています。卒業研究も、学生各自の目標・目的に合った学部・学科（理学部、農学部、教育学部など）を選び、これらの学部教員の指導のもとで行うことができます。

MP コースで学ぶことにより、現代社会で求められている応用力や積極性を鍛え、課題解決能力を培うことができます。特色のある授業内容と整った学習環境の中で、物事を一方向からだけでなく、多方向から考え、新たな発見をする感性を養うことができます。

進路としては、それぞれの専門領域に関連した分野、すなわち研究、教育、スポーツ関連、生涯教育、福祉、介護、国際関係、情報関連などが考えられます。また、卒業研究に関連した岡山大学の大学院はもちろん、外国を含めた大学の大学院への進学の手も大きく開かれています。

MP コースでは一人ひとりの興味関心に応じた将来設計を行う教育プログラムを自ら組み立てられることが大きな特徴です。

CONTENTS

MP の特徴／MP 独自の授業…………… 3

キャンパスライフ…………… 4-9

アカデミック・アドバイザー制度…………… 10

英語合宿…………… 11

交換留学 in Thailand…………… 12

語学研修…………… 13-14

副専攻コース…………… 15

フロンティアサイエンティストコース…………… 16

就職活動／卒業生からのメッセージ…………… 17

入試概要…………… 18

MP コースの特徴

1

目標に応じた独自の学部横断型カリキュラム

2

アカデミック・アドバイザーによる効果的な履修指導

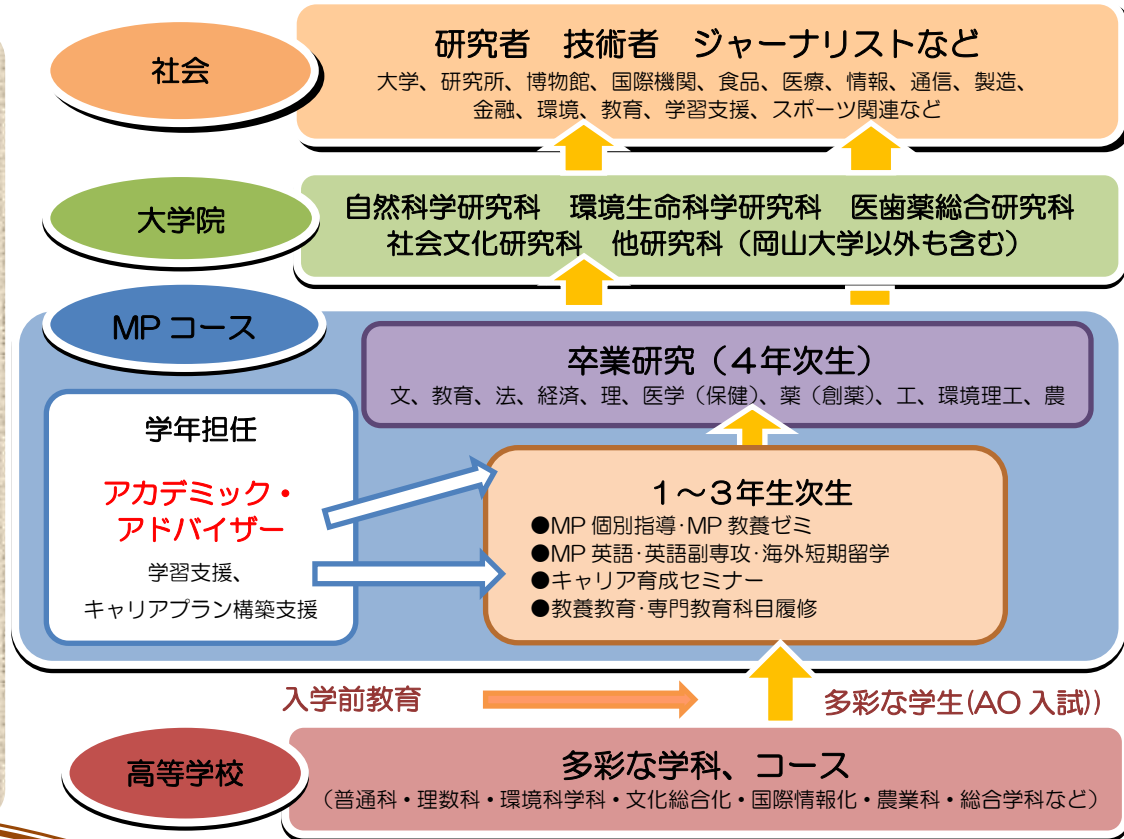
3

目的に応じた学部・学科での卒業研究

4

実践的な訓練を通じた、コミュニケーション能力・英語力・専門能力向上

MP コースの学生は、アカデミック・アドバイザーの助言を受けながら文理の枠を超え、自分に最も適した履修プログラムを作ります。そのため、履修プログラムは学生一人ずつ違い、誰一人として同じ時間割で学んでいる学生はいません。通常の学部・学科に属する学生が選択科目を除いてクラス全員で同じ授業を履修するのとは際だった違いがあります。



●MP 英語

“使える英語”が学べる授業。ネイティブにも通用する発音を学べる授業や、日常やビジネスでの文章を身に付ける授業があります。少人数制の特色を活かしたきめの細かい指導が受けられます。

●MP 教養ゼミ

様々な学部の先生や他大学の先生方を招き、文理を問わない講義をしてもらいます。文系、理系に偏らない柔軟な発想を養うことができます。また、課題に対して、自分でも調べ、プレゼンテーションする時間もあり、社会に出たとき必要になるコミュニケーション力なども身に付けることができます。

●キャリア育成セミナー

自分のキャリア(将来こうなりたい)を考えていくセミナーです。無限の可能性のある MP コースだからこそ、将来やりたいことがなかなか 1 つにしばれません。そこで自分の興味のある分野や、性格などをもう一度見直し、本当に自分のやりたいことを発見したり、その夢を実現したり考えていきます。また、実際に社会で活躍されている方々に講演してもらい「社会とはどういうものか」「学生時代どう過ごせばよいか」などのお話を聞くことができます。

MP
コース独自の授業

1 年

キャンパスライフ

Anna Sato

佐藤 安奈

岡山県立御津高等学校出身

マッチングプログラムコースは「学部には所属せず、本当に自分のやりたいことができる」というのが特色です。私は自然環境や農学に興味があり、どちらに専門的に進むかはこれから大学で学ぶ中で決めていこうと考えています。大学というのは自分の興味のある分野を専門的に深めていくところですが、マッチングプログラムコースなら本当に自分に合った時間割を考えることができます。

大学の講義を受けてみて一番に感じたのは、1限の時間の長さです。高校までと違い、1限が1時間30分あるというところは、なかなか苦しいものがありました。しかし、だからこそ自分のために勉強しているのだと実感することもできました。大学は絶対に行かなければいけないところではありません。とらなければいけない授業もありますが、それ以外は自分の将来の勉強のために授業を受けるのです。高校までの受験対策のための授業とは違います。大学は自分のやりたいことのために学ぶところです。私は学部という枠にとらわれず本当に自分のために学ぶことができるこのマッチングプログラムコースという恵まれた環境で学ぶことができることを幸せに思っています。



1 年前期

	月	火	水	木	金
1	キャリア形成基礎講座 (教養教育科目)	基礎生物学演習Ⅰ (理学部)	健康・スポーツ科学 (教養教育科目)	MP 個別指導 (MP コース)	韓国語初級Ⅰ (読本) (教養教育科目)
2	英語 (MP) (MP コース)	自然科学入門 (MP コース)	英語 (MP 2) (MP コース)	環境問題とその解決 のための科学技術 (教養教育科目)	
3	環境と生物 (教養教育科目)	韓国語初級Ⅰ (文法) (教養教育科目)	MP 教養ゼミ (MP コース)		
4		教養生物学実験 (教養教育科目)		スポーツ実習 A (教養教育科目)	
5		↓			

集中講義：まきばの実習(農学部)・農場体験実習(農学部)・スポーツ実習 B(教養教育科目)

1 年

キャンパスライフ



Ryo Ninomiya

二宮 亮

愛媛県立宇和島南中等教育学校出身



僕はもともと文系です。時間割を見てみれば、「本当に？」と思うでしょう。高校生だったとき、僕は大学で経済を勉強したいと考えていました。そんな中で興味を持ったのが経済の発展に伴う環境の変化でした。もっと知りたいという気持ちが次第に大きくなり、いつの間にか、もっとしっかり勉強したいと考えるようになって見つけたのが岡山大学マッチングプログラムコースです。このコースには、一週間のコマの中で履修が決められているものが4つしかありません。他のコマには他学部の講義を自分の興味関心のもとで履修することができます。現在の段階では、時間割の都合でどうしても入れられない経済学部の講義は取れてないのですが、他学部の講義を受けられるというマッチングプログラムコースにしかない利点を生かしてどんどんとっていかこうと考えています。いろいろな分野にまたがって勉強してみたい、興味も持っている人はぜひマッチングプログラムコースに来てみませんか？



1 年前期

	月	火	水	木	金
1	生活と環境の化学 (教養教育科目)	基礎生物学演習Ⅰ (理学部)	健康・スポーツ科学 (教養教育科目)		仏語初級Ⅰ(読本) (教養教育科目)
2	英語(MP) (MPコース)	自然科学入門 (MPコース)	英語(MP2) (MPコース)		学校教育心理学 (教育学部)
3	環境と生物 (教養教育科目)	仏語初級Ⅰ(文法) (教養教育科目)	MP教養ゼミ (MPコース)	MP個別指導 (MPコース)	
4		現代の化学 (環境理工学部)		スポーツ実習A (教養教育科目)	
5				物理入門 (環境理工学部)	ブレ上級英語 (教養教育科目)



2年

キャンパスライフ



Ayaka Inoue

井上 綾香

岡山県立岡山芳泉高等学校出身

法学とスポーツ——高校時代、その両極端な二つの分野に興味があった私は、自分の進路に悩みました。それと同時に、もっと自分の将来についてじっくり考える時間が欲しい、とも思いました。そんな私に進路指導の先生が勧めてくれたのが、この岡山大学 MP コースでした。高校3年生の夏にオープンキャンパスへ参加し、MP コースの魅力——独自の学部横断型カリキュラムや、英語教育・キャリア育成の充実さ——に惹かれました。ぜひ MP コースに入りたい！と強く思うようになりました。

そして現在、その希望通り、MP コースで充実した毎日を送っています。私の時間割は、“私の興味”で出来上がっています。とにかく自分が興味を持った授業を選択し、履修しています。1年次の頃は法学部と教育学部(スポーツ関連)の授業を履修しましたが、2年次になった今では、法学部の授業を中心に文学部や経済学部の授業を履修しています。

また、私の大学生活に欠かせないのが MP コースの15名の仲間です。それぞれが違った“興味”を持っていて、それぞれの話を聞くのが凄く面白い。彼らと過ごす時間はとても楽しく、「MP コースに入って良かった」と、心から思わせてくれます。



2年前期

	月	火	水	木	金
1	情報化と職業倫理 (理学部)	企業法総論 (法学部)	憲法ⅡA (法学部)		
2	不正行為法 (法学部)	MP 教養ゼミ (MP コース)	心理学講義 (文学部)	口の機能と健康管理 (教養教育科目)	経済経営特殊講義 (経済学部)
3	MP 個別指導 (MP コース)		上級英語 (教養教育科目)		刑法総論Ⅰ (法学部)
4				契約法 (法学部)	
5			英語(MP3) (MP コース)		



2 年

キャンパスライフ



Mai Nishiwaki

西脇 舞

岡山県立岡山操山高等学校出身

私の将来の夢は保健体育の教師です。大学では、教員免許が取得できるように授業を組んで履修しています。私は、陸上競技をしているので、時間割を作るときには、出来るだけ授業を固めておいて、そのあとの練習の時間を多くとれるようにしています。一から自分で時間割を考えないといけないので大変ですが、自分に合った時間割を決めることができるが、MP の最大の利点だと思っています。また、MP は違う分野で学んでいる 16 人が同じルームで過ごしています。同じ分野で固まっていれば、その分メリットもあるとは思いますが、違う分野で固まっているからこそ発展する話もあり、とても刺激になっています。

また、MP 教養ゼミでは、プレゼンテーションやディベートの授業で同級生と切磋琢磨して自分の力を伸ばしていったり、自分の学んでいる分野とは違った講義を聴いたりして知識や考え方を広げていっています。



2 年前期

	月	火	水	木	金
1					韓国語初級 I (読本) (教養教育科目)
2		MP 教養ゼミ (MP コース)	英語 (教養教育科目)	学際的研究と臨床 (教養教育科目)	学校教育心理学 5 (教育学部)
3	公衆衛生学・衛生学 (教育学部)			基礎英語 (教養教育科目)	
4	MP 個別指導 (MP コース)		教職論 4 (教育学部)		
5			英語(MP コース 3) (MP コース)		



2年

キャンパスライフ

Toshitsugu Takahashi

高橋 俊次

岩手県盛岡市立高等学校出身



MP 受験理由—— 人の情動行動や社会行動のメカニズムに興味があり、内分泌系、神経系の働きと、脳について中心に学びたく、医、薬、生物学科、などの理系的なアプローチの他に、心理学などの文系的なアプローチも必要と考え、学部垣根を超えることができるMP コースに魅力を感じました。大学では上記のとおり、理学部生物学科、薬学部、医学部における授業を中心として学んでいます。将来の夢は、研究職につくことです。できれば、アメリカで最先端の研究がしたいです。

私は、勉強のほかに大学ではサッカーやフットサルをしています。一人で食事に出かけたり、温泉に行ったり、のんびりショッピングしたりするのも好きです。

MP コースはみんな仲良く、とても賑やかで楽しいコースです。ひとりひとりが違う目標を持つことでそれがまた新たな刺激となり、新しい考え方を身に付けることができます。さらに、上下の繋がりが厚く、先輩、後輩ともに非常に仲がよいコースです。



2 年前期

	月	火	水	木	金
1	情報化と職業倫理 (理学部)	有機化学Ⅲ (薬学部)			
2	生化学Ⅰ (理学部)	MP 教養ゼミ (MP コース)	動物生理学 (理学部)	食料と経済 (教養教育科目)	生体制御学Ⅱ (理学部)
3	生物学実験 A (理学部)	生物学実験 A (理学部)	人体解剖学 (薬学部)		
4	↓	↓	MP 個別指導 (MP コース)		
5	情報化社会論 (理学部)		英語(MP コース 3) (MP コース)		上級英語 (教養教育科目)



3年

キャンパスライフ



Yu Hayashi

林 有生

大阪府立長尾高等学校出身

私は大学に入学した当初、自分が何を学びたいのかよくわかっていませんでした。自然が好きなので、環境に関することを学びたいという漠然としたイメージはあったのですが、興味がある範囲が幅広く、どうすればいいのかわからなかったのです。

1回生の頃は、教育学部、文学部、経済学部、理学部、環境理工学部など、様々な学部の講義を受講していました。MPコースに入り、いろいろな学部の講義を受講していくうちに、森林に関心があるとわかり、今はほぼ農学部の講義ばかり受講し、農学部の研究室で、森林保護などを学んでいます。

同じ「環境」というひとつのテーマでも、学部によって、それぞれ捉え方が違うので、いろいろな学部で、いろいろな角度から学んだことで、より多くの視点から環境について考えられたと思います。

今学期、所属する研究室の山での作業について行きたいと考え、あえて授業がない日をつくりました。実際に山に行って作業をする中で多くのことを学んでいます。このように、必修にしばられず自分の考えで自由に時間割を組めるのが、MPコースの最も良い所だと思います。



3年前期

	月	火	水	木	金
1			農業経営学 (農学部)	地域開発論 (環境理工学部)	
2	樹木生態生理学Ⅰ (農学部)		英語(オラコン) (教養教育科目)		
3			応用生物統計学 (農学部)		
4			MP 英語 1 (MPコース)		
5	MP 個別指導 (MP コース)		MP 教養ゼミ(倫理・哲学) (MPコース)		



アカデミックアドバイザー制度



積極的に
なればなるほど
自分のプラスに



Soma Ryuto

龍頭 壮磨

八女学院高等学校出身



Hitoshi Ueda

上田 均

理学部生物学科教授

AA

AA 制度とは、各学生の学びたいことや将来の目標にマッチした分野を専門とする教員がアカデミックアドバイザー（A.A）として学生ひとりひとりを担当することです。学生とA.Aは基本的に毎週一回面談をします。主な内容は、授業履修に関する助言、学業の進行状況の報告や、将来について相談、大学生活についてなど多岐にわたります。マッチングプログラムコース（MPコース）の場合、個々の学生が学部・学科の枠にとらわれず、独自のカリキュラムを組み立てるため、膨大な数の授業科目の中から自分にあった授業科目を選択します。そのことは決して容易ではありません。そんな時、特にA.A制度は頼りになります。

また、各学生とA.Aによって行なっていることは違い積極的になればなるほど自分のプラスになっていきます。私の場合、英語の実力を伸ばしていきたいため、毎週英語の記事を選び読解することに取り組んでいます。

高校までと違い、一般に大学の、特に1・2年生の間は教員と直接話す機会はそれほど頻繁にはありません。しかし、MPコースでは毎週AAと面談することで教員との距離が近づき、積極的に大学教員という「人的資源」を利用することができるのです。MPコース学生の積極性は既に各方面にしられるところですが、その一つの要因として、この教員との距離感の無さもあげられるのではないのでしょうか。



英語合宿 in 国立吉備青少年自然の家



Ayuko Kubo

久保 愛結子

岡山県立

吉備高等学校出身



「合宿中の使用言語は英語のみ」。前もってそのような説明を受けましたが私は内心、「日本人同士はなんだかんだ言って日本語を使うだろうし、留学生との会話だけ英語だろう」そんな風に思っていました。ですが、いざ合宿が始まると、日本語を使おうものなら先生方の厳しい目が光り、“Don't speak Japanese!”の嵐です。私はこのような英語しか使ってはならない環境というものを経験してみて、ペーパーテストのような紙面上では知ることのできない、本当の英語のコミュニケーションスキルを測ることが出来ました。

キャンプの定番カレー作り、室内での様々なレクリエーション、留学生や私たち学生のスピーチコンテスト等の楽しいアクティビティーを通して英語を話すことに抵抗がなくなり、その上留学生たちとも仲良くなることが出来ました。キャンプに参加する前は英語の発音がたどたどしかった友人もキャンプ中は心なしか自然と流暢な英語を話していたのが印象的でした。

英語合宿を通して、留学生も英語が第一言語ではない生徒が大半で、私たち日本人と同じように英語を外国語として勉強している仲間だということに気づきました。彼らにだって文法の間違ひはあります。しかし自分と何が違うのだろうと考えたとき、それは積極的に英語を話そうとする姿勢でした。1泊2日という短い時間ではありますが、これからの英語学習に対するモチベーション、英語に対する価値観の変化など、得るものは想像以上でした。英語を本格的に勉強してみたいという人にはもちろん、英語が苦手だという人ほどこの合宿は有意義なものになることと思います。

交換留学 in Thailand

Miyuki Kusakari

草薙 幸

岡山県立津山高等学校出身



私は現在、タイのバンコクにあるマヒドン大学インターナショナルカレッジに留学しています。タイに留学していると言うと、よく「タイ語を勉強している」と勘違いされますのですが、大学名からも分かる通り講義は全て英語で行われます。岡山大学にある交換留学制度のEPOKを利用すれば、アメリカやイギリス等へも留学できますし、中国やタイ、韓国に留学し現地の言葉を勉強するという事もできます。また、私は自分で自由にカリキュラムが組めるというMPコースの良さを生かし、1年間留学しても4年間で卒業できるよう時間割を調整する事ができました。

名前を聞いた事がある程度で勝手に途上国のイメージを抱いていたタイですが、実際にバンコクに住んでみると岡山よりもずっと都会でした。けれど、首都の発展ぶりや華やかさとは対照的な生活を送っている人が多い事も事実です。

とにかく観光客やビジネスマンを含め外国人が多い国で、タイは物売りの人も含めて英語を話せる人がとても多いです。留学先の大学はやはりタイ人が多いですが、英語はみんなペラペラな上にバックグラウンドが様々で、タイ語と英語の他に1ヵ国語以上話せるのは当たり前、副専攻でさらに日本語や韓国語、中国語を勉強しているのが普通です。

間違いないのは、将来こうした人達と勝負していかなければならない時が必ず来るという事。特に同じアジアで、英語を話せる人数にこれだけ開きがあるという現状に危機感すら覚えます。大学を卒業し、仕事を選ばなければ英語が話せずとも海外から見れば羨ましいほどの高給をもらえる日本。世界でも特殊な国なのではないでしょうか。

語学研修 in Adelaide

岡山大学にはオーストラリアのアデレードに約1ヶ月ホームステイできる春期語学研修があります。MPコースでは一定以上のTOEICスコアを取得することで、この語学研修の参加費を補助してもらえます。私はこの制度を利用してアデレード大学で英語の勉強をしてきました。授業では他の留学生たちと一緒にスピーキング・リスニング・ライティング・リーディング等を勉強します。パワーポイントを使用してプレゼンテーションをしたり、オーストラリアの文化について勉強したりもしました。また、様々な国から来ている留学生の友達もたくさん出来ました。

ホストファミリーとの生活では、学校での勉強以上にたくさんのことを学びました。平日はホストマザーと一緒に夕食の準備をしながらその日の出来事を話したり、家族とテレビを観ながら笑ったり、休日は山に散策へ行ったり、バーベキューをしたりと様々な体験をしました。これらの体験を通して英語だけでなく文化や習慣、考え方の違いも学ぶことができました。この語学研修に参加することができて本当によかったです。アデレードで過ごした1ヶ月は私の一生の宝物です。

Yuko Ikeda

池田 祐子

愛媛県立今治東中等教育学校出身



その2

Kouhei Yamaoka

山岡 孝平

鳥取県立米子東高等学校出身



誰しも一度は行きたいと思う海外— 私は春休みの期間を利用し、短期語学研修としてオーストラリアのアデレードに行ってきました。

第一印象は、「日本より広いし、大きい!!」。見ること・聞くこと・やることすべてが驚きの連続で、自分自身の世界観が日本国内だけで縛られていることに気づかされる毎日でした。

また、留学中はホストファミリーを中心とした現地の人たちと一緒に外出したり、遊んだりしました。海で、山で、時には街中で、時間に縛られずに過ごすというのも日本いるだけではなかなかできないことかもしれません。

しかし遊んでばかりではなく、研修先の大学では他国からの留学生とともに英語の授業、オーストラリアや現地の文化を学ぶ特別授業などでしっかり英語学習にも取り組みました。英語が上達したかどうかは定かではありませんが、これまでテレビの向こうの世界であった海外が近くに感じられるようになったことが、私を一つ成長させてくれたと感じています。

費用が…、という方も大丈夫です。MP コースでは TOEIC のスコアによって補助金をいただける制度があります。読者の方も、この MP コースでぜひ素敵な海外留学を！



副専攻コース

Let's
Study
English ♪



Saori Amano
天野 早織

清心女子高等学校出身

現在、MP コースでは英語・ドイツ語・フランス語の副専攻コースを履修することができます。所定の単位を修得していくことで、卒業時に副専攻コースの修了証書を受け取ることができます。私が現在参加しているのは、副専攻の英語コースです。私は英語の勉強が好きです。また、専攻分野では年次が上がるにつれて英語で書かれた論文を読む機会が多くなると聞いていたので、英語の能力を更に伸ばしたいと考えていました。なので、入学時に副専攻コースの存在を知った時に「これだ!」と思い、副専攻の英語コースの参加を決意しました。4 年という期間で専攻分野の講義や必修科目と並行して副専攻コースの講義を受けることは大変だと感じることもあります。しかし、英語が好きで、英語の能力をもっと伸ばしたいと考えている方にはピッタリだと思います。副専攻コースの講義の内容はもちろん、同じ志を持ってコースに参加している仲間達との交流で学ぶこともたくさんあります。

学部の壁を越えて講義を受けることができることが MP コースの一番の強みだと思います。専攻分野に様々な学部からだけではなく、「英語」という視点からもアプローチしてみませんか？



	月	火	水	木	金
1	コース演習Ⅲ (農学部)		生体制御学Ⅲ (理学部)		生化学Ⅱ (理学部)
2	生化学Ⅰ (理学部)	動物生態学 (農学部)	英語特別演習Ⅰ (副専攻)		学校教育心理学Ⅴ (教育学部)
3	教育の制度と社会Ⅵ (教育学部)	中等理科指導法 (教育学部)	英語特別演習Ⅱ (副専攻)	環境生態学コース実験Ⅳ (農学部)	
4		MP 個別指導 (MP コース)	MP 英語Ⅰ (MP コース)	↓	植物形態学 (農学部)
5	情報化社会論 (理学部)		MP 教養ゼミ (MP コース)		



フロンティア サイエンティストコース

2年



Misaki Kameoka

亀岡 美咲

岡山県立倉敷天城高等学校出身

フロンティアサイエンティストコース(以下 FS コースとさせていただきます)とは、その名の通り科学の最前線で活躍する研究者・高度専門技術者を育成するための理学部の中にある特別なコースです。最先端科学実習や各分野の研究者の方の講演といった特別プログラムを通して、研究者に必要な不可欠な教養や判断力、自身の考えを発信するためのコミュニケーション能力などを身につけることが可能です。

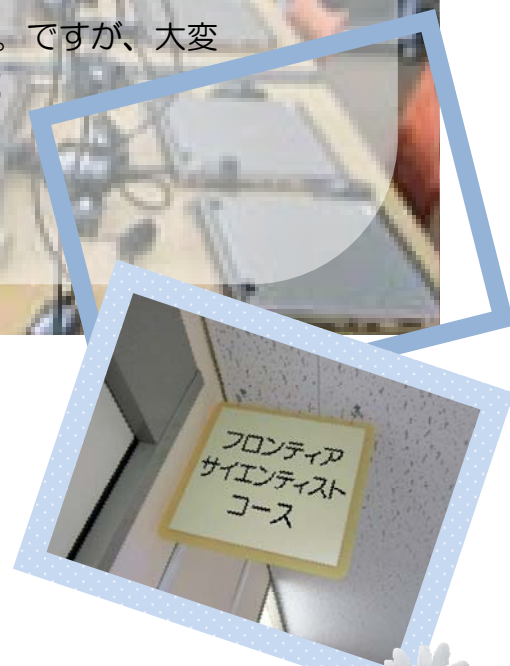
MP コースが「横」に広く学ぶためのコースなのに対して、FS コースは「縦」に深く学ぶためのコースと言えるでしょう。MP コースに所属しながら FS コースにも所属することのメリットはまさにそこにあります。FS コースで最先端の科学を学び、MP コースで幅広い知識を得ることによって、広く浅くでも狭く深くでもない、本当の教養を身につけることが出来るに違いないと私は思うからです。

FS コースと MP コースの両立は簡単ではありません。ですが、大変だからこそやりがいも多いものです。理学部で卒業研究を行う予定の者という応募条件はありますが、MP コースに入学した際にはぜひ FS コースに挑戦していただけることを願っています。

☆フロンティアサイエンティストとは？

新領域やエネルギー・環境問題などの科学の最前線で活躍する研究者・高度専門技術者などです。

- 広範囲な自然科学の教養
- 自立した倫理観と判断力
- 社会へ発信できるコミュニケーション能力



就職活動

4年



私は昨年の12月から約5ヶ月間、就職活動をしてきました。5月初めに希望する会社から内定をもらいました。就職活動で必ず聞かれるのが「MPコースって何？」という質問でした。いちいち説明をしなければならないのは大変だと感じるかもしれませんが、この質問の返答こそが大きなアピールポイントです！MPコースの説明を通して自分が入学してから何を学んでどのような自分や目標を見つけたのか伝えることが出来ました。MPコースという特殊な学習環境の中で自分の軸をしっかり持って学ぶのはとても大変な事でした。ですが、入学してからずっと自分自身と向き合って進路を探し続けてきたからこそ強い意志や目標、自信を持って就職活動にも取り組むことが出来たと感じています。他の学部とは違う環境で自分が4年間をどのように過ごすかで将来は大きく変わると体感しました。それぞれ違う目標を持つMPメンバーから刺激をもらい常に前を向いて学び進めていけるMPコースは私に様々な可能性を示してくれました。MPコースを通して出会えた多くの人達に感謝です。ここで学んだことを胸に、社会に出てからも学び続けて行きたいです。(岡山県立岡山操山高校出身 秋田妃呂乃)

卒業生からのメッセージ



私はMPコースでの4年間で広く「ヒト」について学んできました。ただし、アプローチは生物学であったり社会学であったり心理学、教育学、行動学と様々。それは同じ「ヒト」についてであっても、理学部の生物学からの知見、あるいは文学部の心理学からみたものと教育学部の心理学からみたものはまるで異なるからです。そのため岡山大学のほとんどの学部の講義を履修しました。このように、自分の関心のある対象について様々な分野から学びを深めることのできる点が、MPコースの最大の強みだと考えます。

このような学びを経て、現在は岡山大学大学院で特に教育学と社会心理学に焦点をあてて「ヒト」の研究を進めています。また高等学校の非常勤講師(保健体育)や大学での講義補助など「ヒト」と関わる場を自ら積極的に設けることで、いつも自分の関心のある環境に身を置くようにしています。そこでもまた、MPコースで培ったコミュニケーション能力や、他者と議論を繰り返しながらより良いものを創っていくという姿勢は私の大きな武器になっています。

関心のある分野がまだはっきりしていない方や、ある対象を様々な見地から研究したい方は受験を考えてみてはどうでしょうか。

(岡山大学大学院 教育学研究科 教科教育学専攻(保健体育学コース)修士1年 竹内秀一)



入試概要

■募集人数 16名

■出願資格 次のいずれかにも該当する者

1 次のいずれかに該当する者

① 等学校（中等教育後の後期日程を含む）を平成18年3月以降に卒業した者及び平成25年3月までに卒業見込みの者又はそれと同等の学力があると認められる者。

② 高等専門学校の第3学年を平成18年3月以降に修了した者又は平成25年3月までに修了見込みの者。

2 岡山大学マッチングプログラムコースの勉学を強く希望し、最終の選抜に合格した場合必ず入学することを確約できる者。

■選抜方法

●第1次選抜

○出願書類（調査書・自己推薦）による書類選考を行う。

○第1次選抜の合格者は、原則として、募集人員の3倍程度とする。

○志願数が募集人員に対する予告倍率（3倍）を超えた場合は、第一次（書類）選抜を行い、その合格者についてのみ第2次選抜を行う。

志願者調査書の評点は数学・英語・国語を重視する。自己推薦書の内容は自己アピール及び活動記録である。その他の活動実績（生徒会活動・スポーツ活動など）も評価する。

●第2次選抜

第1日

講義に関するレポート 400点

（英語に関する課題が一部含まれることがあります。）

講義を受講し、与えられた課題（問題）に対してレポートを作成する。

講義時間とレポート作成時間を合わせて120分、これを2回行う。

第2日

（1）小論文 300点

数学・物理・化学・生物・地学・保健体育の6題から1題を選択し、小論文及びポスターを180分で作成する。

（2）発表及びグループ討論

選択した問題に応じて6人程度のグループに分かれ、発表（6分程度）及び討論（40分程度）を行う。

（3）個人面接

各個人に対し、20～25分の面接を行う。

※詳細は、募集要項またはMPコースホームページを参照してください。

あなたの夢はなんですか？

このパンフレットは毎年、MP学生が主体となりデザインや編集を行っています。たくさんのご協力のもとに本誌が出来上がりました。ご協力頂いたすべての皆様に感謝致します。そしてこの本誌を手にとってくださった皆様のお力添えになれば私たちはとても幸いです。ご覧くださり、ありがとうございました。

統括：池田祐子 藤川真奈 横山眞理

岡山大学マッチングプログラムコース
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 理学部本館
[TEL:086-251-7763](http://www.mpc.okayama-u.ac.jp/) FAX:086-251-7777
<http://www.mpc.okayama-u.ac.jp/>